

安心・安全で魅力ある 中国地方を築き、未来につなぐ

私たちは、中国地方がもつ自然環境、歴史や文化、製造業を中心とした産業などのポテンシャル（潜在力）を最大限に活かし、次世代に引き継ぐ魅力ある地域づくりを目指しています。そこに込められているのは、中国地方への「想い」です。

また、近年多発する豪雨災害や、今後発生が想定される大規模地震などに対する防災・減災対策、高度成長期等に整備したインフラ施設の老朽化対策など、日本を取り巻く様々な環境に対して、広域的な視点から「国」として対応することが私たち中国地方整備局の職員には求められます。

私たちが見つめる先には、誰もが安心・安全に暮らすことができ、魅力が溢れる中国地方、そして日本を築き、未来に繋いでいくという目標があります。「国でしかできない仕事」、「国だからできる仕事」がここにはあります。



中国地方のあるべき姿を目指して

技術（土木） 本局企画部 企画課 係長 寺岡 浩



中国地方は、関西・四国・九州を結ぶ地理的条件に恵まれ、山陰と山陽の魅力ある2つの地域性や、豊かな自然、歴史、文化を有するなど、優れている面が多くあります。一方で、全国の中でも人口減少や高齢化が進んでおり、また、広大な中山間地域により居住可能な土地が限られ、災害リスクの高い地域に多くの人口や資産が集中しています。

このような中国地方の特徴を踏まえ、中国地方整備局は広域的な視点で50年後、100年後の中国地方のあるべき姿を目指し、地域住民の方、民間事業者、

関係する行政機関など、いろいろな人と力を合わせ、プロジェクトを進め社会に貢献しています。

一つ一つのプロジェクトを進めていく上では困難が伴うこともあります。中国地方整備局だからこそできる仕事であり、誇りを持って携わることができる、やりがいのある仕事だと思います。

皆さんが培った感性や、柔軟な発想力、コミュニケーション力を活かし、私たちと一緒にこれからの中中国地方を創っていきましょう。

道づくりの「道」を歩んでみませんか!!

事務 広島国道事務所 計画課 専門官 小尻 竜二



皆様はこれまで、それぞれの「道」を歩んでこられたかと思いますが、私の所属する計画課は、道づくりに関する中長期計画、事業評価や整備効果の検証、渋滞及び環境対策などを行っており、そのうち広報に関する業務などを担当しています。

平成30年7月豪雨では、当事務所の管轄内においても、幹線道路などの交通基盤が寸断され、各所で発生した通行止めや大渋滞の影響から人々や物流の停滞を招き、当事務所が迂回路設置により短期間で交通開

放した幹線道路においては、「命のみち」と呼ばれるなど、連日の報道収集により、社会活動における道路の重要性を再認識できたところです。

冒頭の「道」に話は戻りますが、「命のみち」と呼ばれると、そんな道づくりの「道」をあなたも歩んでみませんか？

治水、利水、環境 3本の柱で「命」と「財産」を守る

中国地方の人口や資産は、河川の氾濫区域に集中しており、洪水や土砂災害など自然災害から、地域の暮らしの安全・安心を守るために河川、ダム、砂防、海岸の整備や管理とともに、うるおいとやすらぎの空間を創出するための環境整備を通じ、「安全で安心して暮らせる地域づくり」と「美しく豊かな自然環境の保全」を目指します。



PICK UP! 倭伊川放水路

島根県東部を流れる斐伊川。斐伊川・神戸川の沿川は古くから幾度もの洪水被害に見舞われてきました。毎年のように発生する洪水は、神話に登場する大蛇のヤマタノオロチにたとえられ、恐れられていました。約25,000戸の浸水被害が生じた、昭和47年7月洪水を契機に斐伊川の治水対策が計画されました。

治水対策は、3つの事業柱から成り立っています。

- ①上流の尾原ダム・志津見ダムの建設
- ②中流の斐伊川放水路を建設
- ③下流の大橋川の築堤等の改修、中海・宍道湖の湖岸堤整備

写真的斐伊川放水路は、斐伊川の洪水の一部を神戸川に分流させ、斐伊川下流や宍道湖の水位上昇を抑え、氾濫を防止しています。工事は、平成6年から本格的に始まり、平成25年、延長13.1kmにわたる放水路が完成しました。

PICK UP! 斐伊川放水路

『巨大水路』に託された重要な役割

技術(土木) 出雲河川事務所 神戸川・放水路管理室 係長 和田 英治

私が働いている出雲河川事務所では、長年、斐伊川の治水に取り組んでいます。その中でも「斐伊川放水路事業」は、斐伊川の洪水の一部を隣接する神戸川を経由して日本海に流す大規模な事業で、計画から約40年もの歳月をかけ、平成25年に完成しました。

斐伊川放水路には、普段水が流れていないため初めて見た方は疑問に思われることが多いですが、洪水時には姿を一変

して斐伊川の水を分流し大きな治水効果を発揮します。

私は、主に斐伊川放水路の施設管理を担当していますが、これまで先輩方が築きあげた歴史の重みを感じつつ、大規模な洪水から沿川の皆様の生命・財産を守ることを第一の使命に、日々やりがいを感じながら仕事を取り組んでいます。

皆さんもそんなプロジェクトに参加してみませんか?



魅力あるかわづくり

技術(土木) 岡山河川事務所 調査設計課 係員 西川 明花

私は主に河川の工事や管理をする際に必要となる最新の河道状況を把握するための調査を行っています。調査の内容としては河道の測量や河床材料調査、河川に生息する植物・動物などの調査、水質調査、河川空間の利用状況調査と多岐に渡っています。周りの方にサポートをいただきながら勉強の毎日です。

また近年では女性の技術職員も少しずつ増えており、女性の意見も大切にしてもらえる職場だと感じています。入省したての1年目のときから「どう思う?」と意見を問われるごとが多く、国民のくらしを支える整備局の一員として働けることにやりがいを感じています。

より安全・安心な河川利用のために

事務 出雲河川事務所 占用調整課 係員 小谷 美桜

私は、河川法という法律に基づいて、河川の利用に関する許認可業務を担当しています。今まで最も印象に残っているのは、花火大会の会場として河川敷を使用するための許可手続きです。今までは花火を見る側としての視点しかありませんでしたが、悪天候による水位上昇や火災などに対する安全対策等について審査している人がいて初めて花火が楽しめるのだと認識できました。花火大会を住民の方々が楽しんでいるのを見たとき、日々の業務が人々の生活に直接繋がっていると実感し、大きな達成感が得られました。

業務はデスクワークが主ですが、現場に出かける機会も多くあります。地図を見ると現場の風景が頭に浮かんでくるようになり、愛着のある場所が増えているのもこの仕事の魅力だと思います。



水門建設・管理



河川堤防の耐震化



ダム管理



親水護岸整備

人と人、町と街 地域を繋ぐ生命線

地域振興や物流の効率化に欠かせない道路。広域的な高速ネットワークを構築する高規格道路整備や一般国道の整備、交通安全事業など、地域発展の基盤整備を進めるとともに、道路の維持管理を行っています。また、既存インフラ施設の老朽化対策など時代に対応した整備を目指しています。



PICK UP!

山陰自動車道 つなげよう、地元の未来

技術(土木) 松江国道事務所 工務課 係長 上角 弘樹

私は、山陰自動車道の一部を担う大田・静間道路の建設事業を担当しています。

地域や関係者との協議・調整を行いながら事業を進めています。山陰自動車道は地域の期待も大きく、「早くつなげて」、「開通したら、通勤圏内が広がるから雇用拡大につながる」などの声が多く聞きます。

また、私自身、島根県の出身者で、過疎化や高齢化を肌で感じており、山陰自動車道の開通により、地域活性の一役を担える事を誇らしく思っています。我が故郷に恩返しをするために、1日でも早い開通を目指して日々仕事に取り組んでいます。

皆さん、そんな山陰自動車道と一緒につなげていきませんか?



未来に残る道路を共につくろう!

技術(土木) 鳥取河川国道事務所 工務第二課 係員 田中 佑奈

私は、道路建設における設計や工事発注を担当しています。

学生時代に整備局の道路建設現場を見学した際に、その事業の大ささに心を惹かれて入省を決めました。まだ経験が浅く未熟ですが、同じ目標を持つ仲間と助け合いながら業務に励んでいます。

令和になってすぐの5月に開通した、山陰道の一部を担う鳥取西道路事業にも携わりました。開通を迎えるにあたり、業務量が増えて多忙な時期もありましたが、開通後、「道路が出来てすごく便利になった」という地域の方の声をたくさん聞き、整備局の一員としてこの事業に携われたことに喜びを感じています。

皆さんも、私たちと一緒に未来に残る道路をつくりませんか?

日々の積み重ねが自信に繋がる

事務 松江国道事務所 用地第二課 係員 近藤 充浩

私は、道を作るために必要な土地を取得する用地課に所属しています。具体的な仕事内容は、用地交渉、土地の境界の確定、補償金の算定などです。

その中でも、代表的な業務である用地交渉では、地権者の方に事業へのご理解を頂けるよう、事業や補償内容の説明を行います。契約に至るためにには、地権者からの信頼が第一です。信頼を得る為には、何度も交渉に伺う粘り強さと、地権者の方からの質問に丁寧に回答することの積み重ねが大切となります。そのため、正しい知識と、幅広い一般常識が求められます。

もうすぐ用地の仕事に携わって約1年ですが、分からることばかりです。ただ、疑問点は経験豊富な上司が教えてくれるため、日々成長を感じられる良い環境で働けていると感じています。



道路建設(山陰自動車道)



除雪作業



トンネル点検



道の駅(山口県萩市)

地域の経済を支え世界と結ぶ「みなと」

地域の経済・基幹産業を支える「みなと」づくり

原材料の調達や製品の出荷において、効率的な海上輸送を実現することで、地域の経済や基幹産業を支える港。

産業の国際競争力を強化するとともに、災害に強く、環境に優しい港湾を目指します。



広島港 完成自動車の輸出

自動車産業は、中国地方の地域経済を支える基幹産業です。

完成した自動車は広島港で船に積み込まれ、世界各地に輸出されています。



水島港
岸壁の整備



宇野港
賑わいのある「みなと」づくり

地域住民の生活を支える「港づくり」

技術(土木) 本局港湾空港部 港湾空港整備・補償課 係員 櫻井 千遙

私は現在、港湾や空港の工事に携わる港湾空港部港湾空港整備・補償課に所属し、工事を行うために必要な条件や数量、図面を定めた「設計図書」の内容確認を行っています。また、工事現場の安全パトロールにも参加しています。

実際に働いてみて、港の背後には多くの企業があり、中国地方の経済を支えていることに驚きました。そして、地域住民の生活も支える大事な仕事であることを実感しています。入省前よりも「港」や「空港」がぐんと身近になり、新たな学びの多い毎日です。船で海上の現場に向かうこともありますし、爽やかな海と空のもとで大規模な土木の仕事ができるのはとても気持ちが良いです!

ぜひ、中国地方整備局の一員として一緒に働きましょう!



地域産業の発展を目指して



● 技術(土木) 境港湾・空港整備事務所 保全課 係員 浜本 尚拓

鳥取と島根の県境にある境港(鳥取県境港市)で働く私は、「保全課」という現場に一番近く部署で工事の発注と監督を行っています。具体的には、入札契約手続きに必要な工事金額の計算や、工事を無事故で安全に行うための安全パトロールを任せられています。

現場の方と直接お話しする機会も多いので、わからないことがあればすぐ聞くことができる所も魅力的です。

港湾に馴染みのある方は少ないと思いますが、学校で学んだ土木の知識を十分に活かせる分野であり、地域産業を支える非常にやりがいのある仕事です。

中国地方整備局でみなさんと一緒に働ける日を待っています。



意欲を持って働く仕事です!

● 事務 本局総務部 人事課(港湾空港関係担当) 係員 大山 貴令

私は、人事課で採用や人事異動に関する業務に携わっています。業務を進める上で法律や規則等の様々な知識が必要で、関係法令や人事院規則と読めっこをしながら日々仕事をしていますが、行き詰ったときは、上司や先輩方に相談しアドバイスをいただきながら取り組めるので、非常に働きやすい職場だと思います。

人事の仕事は、整備局で働く職員をサポートする業務が中心ですが、職員の皆さんが安心して仕事に取り組める環境づくりが求められるとても重要な業務で、やり甲斐のある仕事です。

また、事務官の仕事は、人事や総務などの内部業務から公共工事の第一線で活躍する現場業務まで幅広い業務があり、様々な経験を積み専門的な知識を身につけられます。

地域経済を支え、国民生活を豊かにする「みなと」を私たちと一緒につくっていきましょう!



世界に開き、 広域交流を支える空港

安全で、利便性に優れた空港の整備目標に、未来の航空運輸を支える総合的な空港機能の充実を推進していきます。



広島港
国際コンテナーミナル



大島干潟
人工干潟の整備

災害から地域を守る ～私たちの使命～

平成30年7月豪雨により広島県や岡山県で甚大な被害が発生しました。また、今後、南海トラフ巨大地震による広域的な大規模災害の発生が懸念されています。中国地方整備局は、防災・減災に努めるとともに、災害が発生した場合には、初期段階の応急活動から復旧・復興における支援など、一連で対応を行っています。地域の皆さんの安全・安心ならしを確保することが、私達の使命です。



PICK UP! TEC-FORCE (緊急災害対策派遣隊)

TEC-FORCEは、大規模な自然災害に際して被災状況の把握や被災した地方自治体の支援を行い、被災地の早期復旧のための技術的支援を迅速に実施します。TEC-FORCE隊員は、職員の中でも専門的な知識や現場経験などを有した災害対応エキスパートで構成されています。地方自治体などへの支援が必要となる大規模災害が発生したときは、即座にTEC-FORCEを派遣し、防災ヘリコプターや災害対策用車両（排水ポンプ車、照明車、衛星通信車など）の出動により、被害の拡大防止や被害状況の調査などの支援を行います。

●近年の主な支援実績

平成23年3月	東日本大震災	東北地方	92日間／延べ1,152名／照明車、排水ポンプ車、衛星通信車、災害対策本部車等を派遣。
平成25年7月	山口・島根豪雨災害	山口県、島根県	28日間／延べ920名／照明車、排水ポンプ車、衛星通信車、災害対策本部車等を派遣。
平成25年8月	島根豪雨災害	島根県	16日間／延べ562名／照明車、排水ポンプ車を派遣。
平成25年9月	台風18号	京都府、滋賀県、広島県	24日間／延べ202名／照明車、排水ポンプ車、待機支援車を派遣。
平成26年8月	広島豪雨災害	京都府、滋賀県、茨城県	35日間／延べ1,324名／照明車、排水ポンプ車、待機支援車を派遣。
平成27年9月	関東・東北豪雨災害	茨城県、熊本県、北海道	9日間／延べ164名／照明車、排水ポンプ車、待機支援車を派遣。
平成28年4月	熊本地震災害	熊本県	29日間／延べ46名／照明車、排水ポンプ車、衛星通信車を派遣。
平成28年8月	北海道・東北豪雨災害	北海道	4日間／延べ44名／待機支援車を派遣。
平成28年10月	鳥取地震災害	鳥取県	8日間／延べ152人／照明車、待機支援車を派遣。
平成29年7月	九州北部豪雨災害	福岡県、大分県	21日間／延べ161人／照明車、散水車、おんと散水車、おんど2000等を派遣。
平成30年7月	平成30年7月豪雨	岡山県、広島県	78日間／延べ2,069人／照明車、排水ポンプ車、散水車、おんと2000等を派遣。
平成30年9月	北海道胆振東部地震	北海道	8日間／延べ24人・日／分解組立型バックパックを派遣。
令和元年10月	令和元年東日本台風	関東、東北地方	28日間／延べ1,636人／照明車、排水ポンプ車、路面清掃車等を派遣。

全国の機械をフル活用！早期復旧へ！

技術(機械) 本局企画部 施工企画課 建設専門官 山口 正樹

としてどのように運用していくかが復旧の鍵となります。

また、復旧作業は刻々と状況が変化するため、自分で現地を確認したり、要望を聞き取って、常に効率的な配慮を考えながら、被災地の早期復旧に少しでも役に立てるところを心がけて、チーム一丸となって復旧作業を行いました。



活躍する仲間達の臨場感あふれる写真を！

事務 本局企画部 企画課 係長 三宅 信行

しながら、使命感をもって活動している姿を伝えられるように心掛けました。

その結果、自分が撮った写真・動画が災害記録誌や整備局ウェブサイトの記録写真・動画に採用され、皆様の目に触れることになり、自分も災害対応の一役を担っていることに、やりがい(達成感)を感じました。



防災力で早期復興を支える

技術(土木) 本局 防災室 係長 福田 幹夫

近年、大規模災害が多く発生していますが、私はそのような災害に備えるための行動計画策定や防災関係機関との連携など、防災力向上を図るために仕事をしています。

平成30年7月豪雨災害では、各地で甚大な被害が発生したが、国土交通省では職員一丸で早期復興に向けた取組や自治体等へ支援活動を行いました。私自身も全国から集まつたTEC-FORCE隊員の対応等を行い、職員一人一人が使命感を持って活動を行う姿に力強さを感じました。

今後も南海トラフ巨大地震など大規模災害の発生が懸念されていますが、私たちが暮らす国土を守るというやりがいのある仕事です。皆さん個々の力を発揮してみませんか？

早期復興に向けて私たちの力を活かす

技術(土木) 広島西部山系砂防事務所 調査課 係員 鳥越 美里

私は現在、土砂災害から国民の皆さんを守るために砂防堰堤をつくる仕事をしています。最初は砂防でなんだろうと思っていた私ですが、周りの方々にたくさん教えていただきながら地域の皆さんへの不安を少しでも取り除けるように仕事を取り組んでいます。

令和元年東日本台風によるTEC-FORCE活動では、砂防の隊員として土砂災害による被害がないか、今ある施設が壊れないか、といった調査を埼玉県内の被災地で行いました。自分たちの力が少しでも早期復興の役に立つよう、使命感を持って調査を行いました。

私たちと一緒に、自分たちの力で国土と国民を守れる仕事をしませんか？



平成30年7月豪雨時の被害状況



H30.7 岡山県倉敷市真備町



H30.7 広島県坂町

平成30年7月豪雨時の対応状況



H30.7 排水ポンプ車稼働状況



H30.7 自治体支援(道路啓開)

まちづくり・すまいづくりを支える

中国地域の経済・社会の活性化や、個性豊かな地域社会の実現、都市の健全な発展と文化の向上を目指して、中国地方の歴史・文化・自然環境等の特性を活かし、活力と魅力あふれ、暮らす人にも、訪れる人にも快適な「まち」をつぐっていくための様々なサポートを行っています。



まちの魅力を高めるために

技術(土木) 本局建設部 都市・住宅整備課 係長 日高 雅彦

進化しつづける「まち」、課題を抱える「まち」と、今後のまちづくりについて今まで以上に考え取り組んでいく必要があります。

例えば、人口減少、少子高齢化が進む中「コンパクトなまちづくり」をスローガンに、この縮小をポジティブにどうえ、より魅力的なまちづくりが一層求められています。

また、一方で、中国地方では平成30年7月豪雨災害のような頻発する大災害に備え、安全・安心に暮らすことについても考えていく必要があります。

まちづくりの答えは一つではありません。

国は直接まちづくりを担うわけではありません

が、このような多岐にわたる課題に対して、県や市町村と一緒に汗をかきながら、将来

より魅力的なまちがつくられるよう、課題解決へ向けた取り組みを進めています。
まちづくりに関わることのできる職場「建設部」で一緒に頑張ってみませんか。



營繕

営繕とは、「建築物の建築、修繕又は模様替え」することです。馴染み深い法務局、税務署、職業安定所(ハローワーク)から、それらを委託した合同庁舎、文化施設、研究施設など、国民の共有財産である国家機関の建築物(官庁施設)の企画・設計から工事監理、さらには維持管理に関するアドバイスまでを一貫して行っています。安全・安心な、便利で親しみやすく、地球環境にもやさしい官庁施設を長く使えるよう施設整備を進めています。



愛される公共建築

技術(建築) 本局営繕部 計画課 係員 奥廣 晴香

営繕部の仕事は、一人で完結するものではなく、常にチームでプロジェクトを進めています。計画・設計・施工など、各担当の職員が専門性を發揮し、組織としてひとつの建物をつくりあげていきます。

私は現在、計画を担当しています。新しく建物の整備を行う際には、どのような権限が入るのか、どこに建ててなのか、どの程度の面積が必要なのかなど、様々な条件を事業開始前まで検討します。また、設計や施工などの事業中は、予定通り事業が進んでいるか、予算の不足は無いかなどの確認を行います。建物で働く職員や利用する方々のニーズを素早く的確に把握し、より良い建物となるように心がけています。急な整備内容の変更があっても、トラブルを未然に防ぐため、日頃から整備局職員同士だけでなく、ユーザー・設計事務所・施工業者などの関係者が密に情報交換を行うことが重要です。自分が担当した建物が無事完成したときの感動はひとしおです。



電気通信

災害時に重要となるレーダ雨量・水位データといった河川情報や、道路を安全に利用するための道路照明施設・トンネル警報・情報表示施設など、安心で快適な暮らしを実現するするために、電気通信施設の果たす役割はとても重要です。国土交通省では、台風や地震といった災害発生時でもリアルタイムかつ確実に情報を伝送できるよう、無線や光ファイバー通信を組み合わせ信頼性の高いネットワークを構築し、これら施設の企画・設計・施工管理を行っています。



機械

安全で安心な地域づくりのための河川、ダムや道路などのインフラ整備・管理において、機械技術は欠かせないものです。インフラが確実にその役割を果たすため、「建設機械」の開発・配備・運用や「機械設備」の計画・設置・管理などを行うとともに、中国地方の各事務所に災害対策用機械を配備し、災害発生時に迅速かつ的確な復旧作業ができる体制を整えています。

また、現場における生産性向上を目指したICT（情報化通信技術）施工の推進、「次世代社会インフラ用ロボットの開発・導入」の推進、優良な民間の「新技術」の活用促進、など多岐にわたる業務を行っています。

地域の安全・安心を支える機械技術

技術（機械） 本局企画部 施工企画課係員 進藤 陸

大雨時に家屋への被害を抑える為に、大量の水を河川へ放水する為に働く、排水機場、水門や排水ポンプ車など、国土交通省が整備している機械設備、車両の管理から運用にいたるまであらゆる仕事に携わっています。また、公共工事の積算に必要な機械経費等の改定や算定などの業務も行っています。国土交通省の管理する機械設備は規模が大きく、現場で見る度に圧倒されます。

私が国土交通省へ入省した理由は地域の安心・安全を支える仕事に就きたいと思ったからです。今では、優しい上司や他の課の方から教えてもらひながら日々勉強をして、地域への貢献できるよう、日々精進しています。



建設機械の開発・配備・運用



建設機械の開発・配備・運用



機械設備の設置・管理



災害復旧作業の支援



ICT施工の推進



※MC（マシンコントロール）とは、衛星システムで位置を計測し、3次元データを基に建設機械を自動制御する技術

インフラ用ロボット開発・導入の推進



事業推進のためのインフラ『電気通信』

技術（電気） 本局企画部 情報通信技術課係員 山中 晃介

電気通信職員は、みなさんの身の回りにある道路照明や河川を管理するカメラなど、電気通信施設の設計から維持管理に至るまでの幅広い業務を担当しており、みなさんの暮らしを支えています。

更には、普段の業務で使用的なPC、スマートフォンや災害時に活躍する衛星通信装置の整備・管理も担っており、これらは整備局の職員全員が「あたりまえ」に業務を行う上で非常に重要な役割を果たしています。

国民の安全・安心を守るために基盤となるメンバーの一員として、私たちと一緒に働きましょう！



新技術・現場での取り組み

ICT施工

i-Construction(建設現場の生産性革命)に取り組むことにより、一人一人の生産性を向上させ、企業の経営環境を改善し、建設現場に携わる人の賃金の水準の向上を図るなど魅力ある建設現場を目指しています。

■ICT(情報通信技術)土工の取り組み

- SSD工法(斜面安全掘削工法)の小型バックホウにマシンガイダンス(MG)の装備を取り付け、丁張設置が困難な場所でも丁張無して安全施工。
- オペレータ目線で掘削作業状況・地山状態がリアルタイムで確認できるように運転席後方にウェアラブルカメラを取り付け。現場管理者とオペレータが情報共有することで作業を円滑化。



■WEBカメラを活用した現場管理の取り組み

- 遠隔地で現地の検測状況を確認することで、段階確認等の確認作業が効率化。
- ウェアラブルカメラの活用により、足場上での確認作業が減少し、安全性が向上。
- ウェアラブルカメラを活用して現場遠隔支援を行うことで、若手技術者への技術継承、作業確認業務の省力化。



技術開発(革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト)

建設現場からデジタルデータをリアルタイムに取得し、これを活用したIoT・AIをはじめとする新技術を試行しています。

■MR技術による施工支援および検査の効率化

(複合現実(Mixed Reality:以下MR)技術)バーチャルモデルと現実空間などを重ね合わせ、現実世界と仮想モデルを同一空間上に表現する技術)

●技能労働者の配筋作業を支援、さらに、現地と工事事務所をインターネット回線でつなげ配筋検査を遠隔管理することで、工程を促進



ドローンを使用した点検

道路橋等の定期点検は、施設へ近接して目視により点検を行っていましたが、ドローン等の新技術を積極的に活用し、目視点検の一部を補うことによって点検の効率化を図る取り組みを進めています。

